

コミュニティバス実証運行計画（案）について

本年2月26日に開催した、平成25年度第4回協議会において、北新町地区及び萩の台地区を新規の公共交通サービス提供地区としての基準に適合するとの承認いただいた。しかし、その際、現地を確認したいとの要望を市民委員からいただいたため、本年3月28日に市民委員を対象に現地視察を実施したが、地区の実態からも、新規サービス提供地区とすることに異論はいただかなかった。

これを受け、この2地区での公共交通サービスの提供に向け、地区の道路状況や利用予測を基に事務局案を作成したうえで、地元の要望も踏まえ以下のとおり実証運行計画案を策定した。

1. 地元説明の状況

北新町地区（4月9日）

萩の台地区（4月19日）

2. 地元からのご意見

北新町地区

- ・運行ルートについて
- ・停留所設置箇所

萩の台地区

- ・運行ルートについて
- ・停留所設置箇所
- ・自由乗降制の導入

3. 要望への対応

運行ルート・・・道路の状況等を踏まえ検討し、設定した。

停留所・・・・・・地元要望を基本に道路の状況等を踏まえ検討し、設定した。

自由乗降制・・・地区内の道路交通量を考慮し、停留所の箇所数を多く設定することで対応した。

※ 別紙1 運行計画【北新町地区】 別紙2 運行計画【萩の台地区】参照

4. 利用予測について

北新町地区については、市地域公共交通総合連携計画策定にあたり平成22年度に実施した交通実態調査による地区内の公共交通族及び送迎族の人数や利用状況を勘案して利用者数を予測した。また、萩の台地区については、上記調査による公共交通族及び送迎族の人数や利用状況を、既運行地区である本町地区及び光陽台地区と勘案して利用者数を予測した。

- ・北新町地区の1日あたりの利用者見込 38人
- ・萩の台地区の1日あたりの利用者見込 75人

5. 運行開始後の課題

両地区とも、市の負担は車両費を除く経常費用の50%以内という現時点での運行の評価基準を満たすために、利用を促進する必要がある。これまで運行してきた本町地区、南地区の利用状況を下記【参考】に示すが、この状況は各地域での努力や協力により達成されていることを踏まえると、新規運行を計画している両地区においても、利用者数を増加させ、運行の評価基準を満たすためには、地域の努力や協力が必要不可欠である。

また、北新町地区については、利用者が少ない見込であることに加え、待機時間が長く、車両運用の効率が低くなるため、近隣の地区と一体的に運行するなど、運行効率を高める検討も必要になる可能性がある。

【参考】 本町地区、南地区での利用予測と利用状況

	1日あたりの利用者数（人/日）	
	利用予測	本格運行移行後の利用状況
本町地区	125	134
南地区	28	27

運行計画【北新町地区】

北新町地区の運行計画は、道路状況や沿線自治会の要望に基づき、以下のように考えています。

(1) 運行経路、停留所設置箇所、運行車両

運行経路、停留所設置箇所は、図－ 1 を参照ください。

生駒駅を始発・終着地点とし、地域内の往復運行を想定しています。

運行車両は、旅客定員 12 名のワゴン車を想定しています。

(2) 運行日、時間帯及び運行便数

平日（土曜・日曜・祝日・休日・振替休日・12/29～1/3 を除く毎日）

運行時間帯は、始発 8 時 30 分頃～終発 17 時頃と想定しています。

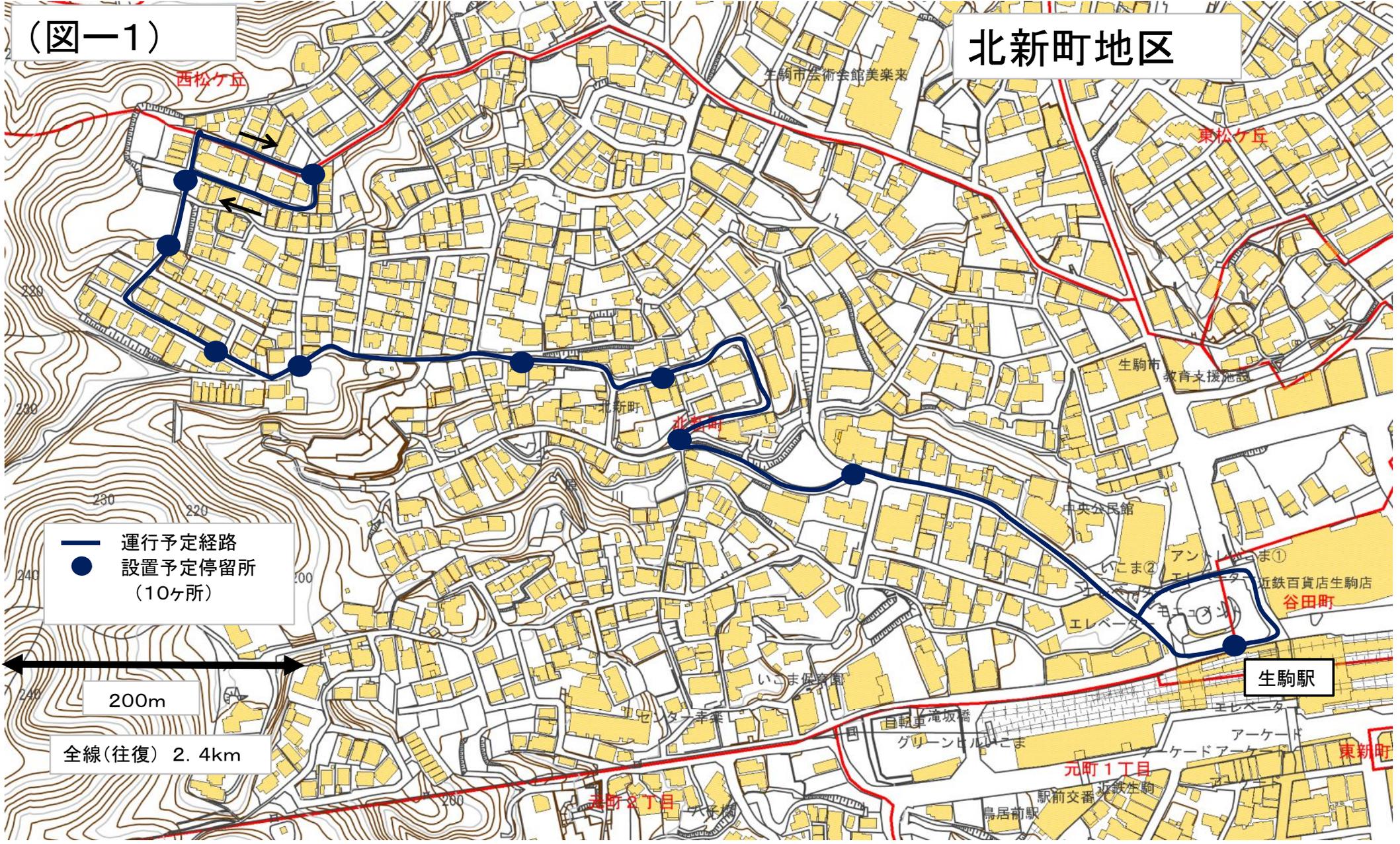
運行便数は、1 日 9 回程度と想定しています。

(3) 運賃

現在運行中のコミュニティバスと同じ、1 乗車あたり大人 150 円、小学生 80 円と考えています。

(図一1)

北新町地区



運行計画【萩の台地区】

萩の台地区の運行計画は、道路状況や沿線自治会の要望に基づき、以下のように考えています。

(1) 運行経路、停留所設置箇所、運行車両

運行経路、停留所設置箇所は、図ー 2 を参照ください。

萩の台駅を始発とし、マックスバリュ生駒南店を終着地点とし、両地点を往復運行することを想定しています。

運行車両は、旅客定員 12 名のワゴン車を想定しています。

(2) 運行時間帯及び運行便数

平日（土曜・日曜・祝日・休日・振替休日・12/29～1/3 を除く毎日）

運行時間帯は、始発 8 時 30 分頃～終発 17 時頃と想定しています。

運行便数は、1 日 9 往復程度と想定しています。

(3) 運賃

現在運行中のコミュニティバスと同じ、1 乗車あたり大人 150 円、小学生 80 円と考えています。

(図一2)

